

平成21年度当初予算に盛り込まれた主な事業

一部 価と重複しています。

【市内経済や市民生活を守るために】

【金融政策】

中小企業融資制度の拡充
 融資枠 163億円（対前年度 38億円増）
 ・「緊急景気対策特別資金」
 融資限度額：3,000万円以内、融資期間：7年以内、融資利率：1.6%など
 ・「まちづくり貢献企業支援資金」の創設
 融資限度額：2,000万円以内、融資期間：10年以内、融資利率：1.5%
 信用保証料助成
 融資額 1,000万円以内の信用保証料を全額助成

【雇用対策】

雇用助成制度
 ・常用雇用助成金
 ・試行雇用助成金
 職業訓練
 ・夜間の職業訓練の実施

【地域経済活性化対策】

中心市街地の活性化
 ・中心商業地出店等促進事業補助金の拡充
 ・オリオン及びパンパ市民広場使用料の引き下げ
 ・市営自転車駐車場の無料時間を拡大（2時間から4時間へ）

公共事業の確保
 ・一般会計 250億円余（対前年度 33億円増）
 ・特別会計 102億円余（対前年度 18億円増）など

【みんなが幸せに暮らせるまちを目指して】

救急医療体制の確保 1億 3,997万円
 輪番制病院と救急告示医療機関の連携強化など
 妊産婦医療費助成の拡充 1億 4,846万円
 助成対象期間を1ヶ月延長
 妊婦健康診査の拡充 3億 3,664万円
 妊婦健康診査の助成を、現行の1回から14回に拡充
 不妊治療費助成の充実 7,530万円
 助成対象に人工受精を追加
 子育て情報の総合的な提供 273万円
 ホームページやメールマガジンなどによる総合的な情報を提供
 高齢者外出支援事業の充実 5,768万円
 70歳以上へのパスカードなどの購入費助成
 障がい者日中一時支援事業の実施 1億 2,555万円
 知的障がい児の対象を中学生へ拡大

【みんなに選ばれるまちを目指して】

市街地再開事業の推進 20億 2,159万円
 馬場通り西地区、宇都宮駅西口第4B地区など
 JR宇都宮駅東口地区の整備 5億 1,777万円

JR宇都宮駅周辺地区の整備 23億 2,514万円
 駅東口広場整備、西口駅前広場周辺整備など
 宇都宮ブランドの確立 8,967万円
 ブランド戦略推進組織の運営、宇都宮の魅力に関する情報発信など
 岡本駅西土地区画整理事業の推進 1億 4,773万円
 中里原土地区画整理事業の推進 1億 9,637万円

【持続的に発展できるまちを目指して】

小中学校整備事業 43億 4,803万円
 学校施設の耐震化、校舎の大規模改造など
 第3図書館の建設 1億 4,512万円
 雀宮駅東地区での建設工事、図書購入など
 宮っこステーション事業の推進 4億 256万円
 学校施設を活用した「放課後子ども教室事業」を6校から1校に拡大
 外国語学習の充実 9,139万円
 小学校における外国語指導助手による授業の拡充
 次世代モビリティ産業集積の促進 1,140万円
 ロボット教材を活用した人材育成事業の推進（VRコン大会の開催）

「もったいないうつのみや」の推進 1,038万円
 市民活動組織への支援やもったいないフェアの開催など
 農産物ブランド化の推進 2,207万円
 農産物の高品質化、ブランド化を推進

【効率的・効果的な行政運営への取り組み】

税金等確保対策の強化
 ・コンビニエンス・ストアにおける納付機会の拡大準備
 税目追加（個人市民税、固定資産税、都市計画税、国民健康保険税）
 ・法人市民税の電子申告の導入準備
 ・滞納者への電話催告の強化
 電話催告の民間委託の実施
 指定管理者制度の導入
 ・飛山城史跡公園に指定管理者制度を導入
 ・市営駐車場の管理（指定管理者）に「利用料金制度」を導入
 民間委託の推進
 ・学校給食調理業務（小中学校 63校から70校へ）
 ・川田、下河原水再生センター維持管理業務（包括的委託）
 新たな行政改革大綱の策定

宇都宮市のメディア戦略について勉強会を行いました。

講師 株式会社スノー代表取締役 放送作家・クリエイティブディレクター 高瀬真尚氏

平成21年2月20日（金）に、宇都宮市のメディア戦略について勉強会を行いました。

メディアの現状

テレビの時代からインターネットモバイル乱立のモアメディア時代に移行したことにより、総務省報告によれば、情報流通量は2000年を境に激増し始め、

5年後には80倍になっており、それが更に増え続けている。

メディアの今後の見通し

今まではテレビ広告により消費者は購買を決定していたが、最近ではネットで検索してから購買し、そして口コミにより情報を共有していくという流れ

会派勉強会

「宇都宮市のメディア戦略について」

また、デジタルサイネージ広告（ディスプレイ）に画像を写すのが今後成長していく。

企業のメディア戦略

ライフスタイルの変化や世界の不況の煽りを受け、テレビCMが縮小している。

新聞購読者が減少し、フリー雑誌が台頭してきている。

企業は、テレビCMに多大の経費を投入していたが、

「五感を楽しむ生活」

東京ガス SUMIKA Project を視察



宇都宮市内の東京ガス社有地に建てられた「SUMIKA Project」のパビリオンを視察

「五感を楽しむ生活」を実現するため、4名の建築家（沢大良、藤本壮介、伊東豊雄、藤森照信）が提案するガスによる新たなコンセプト住宅およびパビリオンを建設したものです。

それぞれの住宅は、

市議会 自由民主党議員会

活動報告

平成21年2月9日（月）、東京ガスが提案する「SUMIKA Project」を、会派14名で視察しました。このプロジェクトは、宇都宮市内の社有地に、自然環境に配慮した人間の感性に基づくコミュニティな感覚を呼び覚ますような、「五感を楽しむ生活」を実現するため、4名の建築家（沢大良、藤本壮介、伊東豊雄、藤森照信）が提案するガスによる新たなコンセプト住宅およびパビリオンを建設したものです。

個性豊かにあふれていて、現代の住宅にとって、いつのまにか欠けてきている自然環境との共生、さらに人間の感性を自覚めさせ、動物的な本能を蘇らせるような世界を、暮らしというコンセプトの中に感じることが出来ました。

見学後に、自然環境と住まいのあり方などについて、担当者を加え様々な議論を行いました。もったいない運動を推進している本市としても、環境に配慮した住まいについても、研究していく必要があると感じました。



多様性を持ったメディア戦略を行うようになってきた。

宇都宮市のメディア戦略

今までは個別の資源（餃